

保育士養成 主任保育士によるサポート



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 准教授

杉浦 貴代子 Sugiura Kiyoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 保育学・心理学



研究の概要

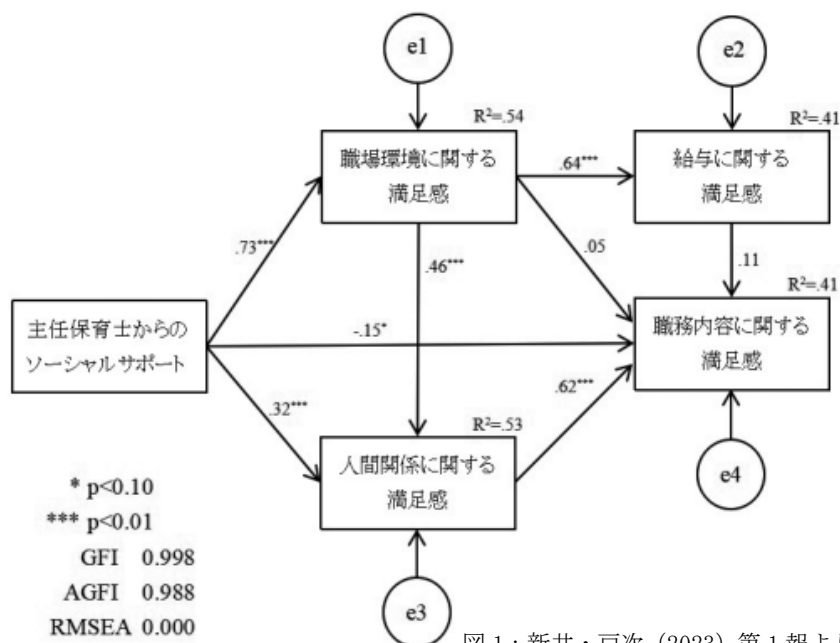
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

① 保育所における主任保育士の役割：保育士の早期退職や、保育の質の向上が課題となっているが、その課題解決のために、中堅である主任保育士のおこなえるサポートとは何かを研究している。主任保育士による直接的な手助けや相談ではなく、職場環境（職場風土、人間関係、業務の公平性）の整備などがより重要であることがうかがわれるが、研究事例も少ないため、他の形はないか、またそういった援助の形に至るまでのプロセスをより広範に調べていきたい。

② 保育所内での心理職の役割：保育所での心理職の活動には、保育士との保育コンサルテーション、保護者面談、組織の中での調整役割などがある。筆者は、プライベートな契約の中で、特定の保育園においてそれらをおこなっている。行政による月1回程度心理職を派遣する巡回コンサルテーションは盛んだが、このような形での支援の在り方は、未ださほど多くはない。

心理職が、スクールカウンセラーのように、特定の保育所に定期的かつ長期間に関わることで、子ども、保育士、組織、保護者にどのような変化が起きてくるのだろうか。月1回の巡回相談と何が違うのだろうか。それぞれにメリットもデメリットもあるだろう。保育所に課せられる役割は年々重くなってきている。2025年の児童福祉法の改正では、保育所の役割の強化が明示されたが、そこに心理職もこれまで以上にインテンシブに、支援者として参加するとどうなるのだろうか。心理士が、より深く現場に入っていくためには、どういうことが必要なのか、事例等から考察していきたい。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現代では、保育所は単に子どもを預かる（養護）のみでなく、よりよい育ちを促す場所（広い意味での早期教育）としての役割、保護者への支援など、多くの役割が期待されている。そして、質の良い保育を提供することが求められているが、役割が重く、複雑になってくる中で、どうしたら質の良い保育ができるのか、明確な答えはない。また、保育士の早期退職も大きな問題となっている。心理職は、こういった時代の流れの中で、保育士という支援者支援を提供することが可能な援助職の一つである。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「主任保育士のソーシャルサポートと保育士の職務満足感との関連に関する研究」